

文献紹介

中嶋和夫（監修）尹靖水・近藤理恵（編著）

グローバル時代における結婚移住女性と  
その家族の国際比較研究

2013年，学術出版会，ISBN 978-4-284-10384-8，定価（4,200円＋税）

山本 かほり

本書は、日本、韓国、台湾における結婚移住女性、すなわち、結婚のために、これらの国に外国から移住してきた女性およびその家族を対象とした研究の成果をまとめたものである。主として、社会福祉学を専門とする執筆者たちが、結婚移住女性やその家族に対する施策やソーシャルワークのあり方を模索することを目的として研究が行われた。

本書は3部構成である。まず、第1部「グローバル時代における東アジアの結婚移住女性とその家族」では、東アジア諸国の中でも結婚移住女性が増加している日本、韓国、台湾を取り上げ、結婚移住女性およびその家族が直面している問題について考察を加えている。第1章「東アジアの結婚移住女性と家族関係の継続」では、日韓台の3カ国の結婚移住女性とその配偶者への量的調査の結果をもとに、結婚移住女性とその家族の家族関係を継続させる要因（＝夫婦ともに伴侶に対する「愛情」p. 20）を明らかにしている。そして、第2章「東アジアの結婚移住女性とその家族が抱える生活問題」では日韓台へ結婚移住した女性から受けた相談内容について比較検討し、結婚移住女性やその家族のニーズを整理している。さらに第3章「東アジアにおける女性の暴力」では、暴力を受けた日韓の結婚移住女性への質的調査をもとに、結婚移住女性が抱える固有のニーズとその支援のあり方について検討している。

第2部「欧米諸国・オーストラリアの移民政策と結婚移住女性」は本書が主として扱う日韓台（東アジア）との比較のために、アメリカ合衆国（第4章）、カナダ（第5章）、オーストラリア

（第6章）、フランス（第7章）、ドイツ（第8章）の結婚移住女性の現状と政策について検討を行っている。第2部で取り上げる国々は「移民の歴史と確固たる移民政策が存在する」（p. 83）という前提のもと、これらの国々で結婚移住女性がおかれている現状を分析、彼女たちが移住した国で受けることができるソーシャルワークサービスの内容について明らかにしている。

第3部「東アジアの結婚移住女性とその家族に対する政策・ソーシャルワーク」は再び焦点を東アジアの日韓台にあてて、各国の結婚移住女性とその家族の現状およびそれに対する対策について考察を行っている。前提となる認識は欧米と比較して、これら3カ国は（1）女性の社会的地位が低い（2）日韓では単一民族意識が強い（3）体系的な移民施策の不在であるというものである（p. 156）。第9章では日本、第10章では韓国、第11章は台湾における移住女性とその家族に対する政策について概観、そして、それぞれの国における政策課題について提言を行っている。そして、第12章においては、前章までの各国の現状と課題をうけて、ソーシャルワークの必要性を主張する。つまり、多文化ソーシャルワーカーが必要であるというものだ。日韓台共通して、専門性をもった多文化ソーシャルワーカーの養成を提言している。

本書は日韓台の結婚移住女性とその家族に焦点をあて、詳細な調査をベースに、実践的な援助（多文化ソーシャルワーク）のあり方を模索した点が興味深かった。しかしながら、まだ、研究としては端緒についたばかりだという印象がぬぐえず、今後のさらなる深化を期待したいものである。